

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5635 笑いの歴史2			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	150
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	月曜3限				
教室	E101教室				
代表教員	角尾 宣信				
担当教員	角尾 宣信				
テーマと到達目標	前期からの展開として、後期では映画やマンガやアニメにおける笑いについて、特に風刺・ナンセンスの笑い・喜劇に関して考えていきます。本授業の目標も前期同様、私たちの生きる近現代社会において、笑いがどのように良くも悪くも機能してきたのかを、理論と歴史両面から学び、今ではメディアにあふれるようになったお笑いについて考えていくことです。				
概要	後期の授業では、漫才やコントだけでなく、映画やアニメにおける風刺、そして喜劇の問題を考察していきます。前半の授業では風刺、そして後半は、風刺とも関連があるナンセンスの笑いや喜劇の問題を考えていきます。題材としては、主に、原発問題を扱った風刺映画『東京原発』、ギャグ漫画『ポポボーボ・ボーボボ』、そしてアニメ『日常』を扱います。また、前期で扱った笑いを分析するための理論を今期も用いますが、適宜、前期受講できなかった方にも分かるように概要紹介を入れますので、後期の「笑いの歴史2」のみの受講でも大丈夫です。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	風刺の複雑さ ―ザ・ニューズペーパー松下アキラの風刺コント				対面授業
第2回	風刺におけるイメージの「転落」とその両義性―フロイトによる風刺の理論				対面授業
第3回	権力に抗する風刺と弱者いじめの風刺―ペルクソンからみた風刺				対面授業
第4回	風刺の風刺―3.11の風刺画、そしてウーマンラッシュアワー				対面授業
第5回	風刺映画の世界―映画『東京原発』				対面授業
第6回	典型的な風刺から一方的な風刺の風刺へ―『東京原発』と風刺対象の転換				対面授業
第7回	一方的な風刺の風刺から双方向的な風刺の風刺へ―『東京原発』と「もの」の次元				対面授業
第8回	風刺からナンセンスへ―「もの」の次元の無意味さ				対面授業
第9回	ナンセンスの意味―漫画『ポポボーボ・ボーボボ』と原子力				対面授業
第10回	ボーボボはなぜ勝てるのか？ ―情動理論の笑いからみるナンセンスの力				対面授業
第11回	超自我が発動するナンセンス―『ポポボーボ・ボーボボ』とフロイト				対面授業
第12回	ナンセンスの笑いの社会性―『ポポボーボ・ボーボボ』と現代の絶望と生命力				対面授業
第13回	アニメ『日常』におけるナンセンスの笑い―原子力・セカイ系を笑うカワイイ笑い				対面授業
第14回	カワイイ笑いと喜劇―今ここに生きる共同体と国家的なものへの服従				対面授業
第15回	まとめ				対面授業
成績評価の基準	毎回課題となる小レポートを出題します（200字以上。締切期限あり。提出方法は初回授業で指示）。その回答内容を評価します。課題提出数が全課題数の3分の2未満の者（未提出が6回以上の者）の単位は認定しません。また、インターネット上等から複写した文章を記し、その出典を明記していないものは、1回でも「剽窃行為」として不可になります。複数の者が同文の解答・回答を提出した場合、その全員を零点とします。				
履修にあたっての留意事項	・本後期授業のみの履修でも大丈夫ですが、前編となる「笑いの歴史1」（前期）も合わせて履修することをお勧めします。 ・試験は行いませんが、各授業の後に提出する課題小レポートの内容が成績評価を左右します。 ・小レポートにおいては、チャットGPTの使用を禁止します。発覚した場合は呼び出し、または不可とします。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					

【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	T学科
---------------------	-----

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	各授業で資料を配布します。また、映像や音声資料に関しては、授業中に抜粋部分を観賞し、議論します。	教科書(ISBN)	
参考文献	各授業で指示します。	参考文献(ISBN)	